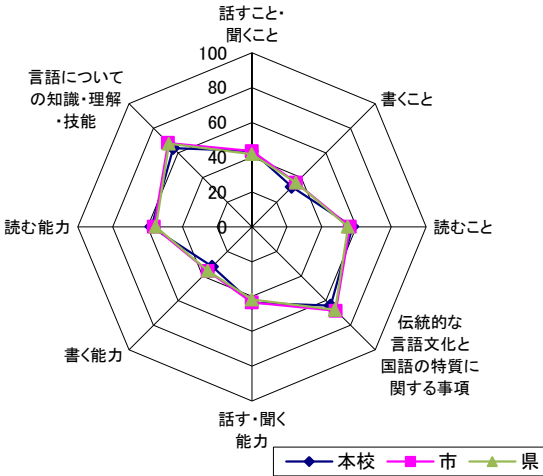


宇都宮市立御幸小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	43.6	43.5	41.8
	書くこと	32.4	35.9	35.8
	読むこと	57.8	56.3	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	64.0	68.2	67.5
観点	話す・聞く能力	43.6	43.5	41.8
	書く能力	32.4	35.9	35.8
	読む能力	57.8	56.3	55.2
	言語についての知識・理解・技能	64.0	68.2	67.5



★指導の工夫と改善

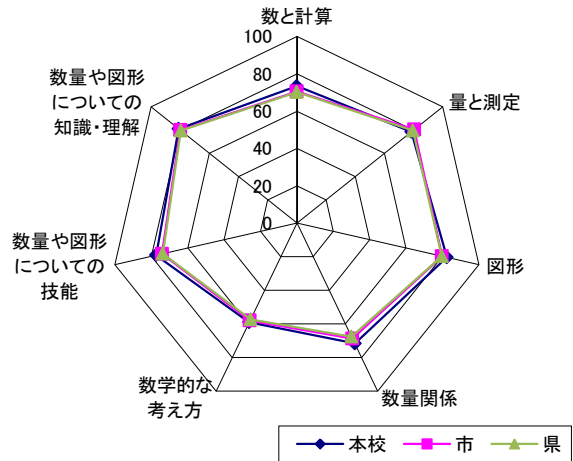
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○この領域の平均正答率は43.5%で、市平均より0.1ポイント、県平均より1.8ポイントそれぞれ高くなっている。 ○進行に沿った話し合いについての設問では、市平均、県平均を約10ポイント上回っている。 ●話し合いにおける司会者の役割についての設問では、市平均、県平均を5ポイント以上下回っている。	・話し合いの活動で、役割を固定することなく、話し手や聞き手、司会者など、それぞれの立場で話し合いに参加できるようにして、話す・聞く力を育成していく。
書くこと	●この領域の平均正答率は32.4%で、市平均より3.5ポイント、県平均より3.4ポイントそれぞれ低くなっている。 ●意見をもとに招待状に入れるべき要素を選択する設問では、市平均、県平均を約10ポイント下回っている。	・国語科に限らず、総合的な学習の時間など他教科においても、相手に伝えたいことを文章にまとめるという機会を設けていき、書く能力が身に付くようにする。
読むこと	○この領域の平均正答率は57.8%で、市平均より1.5ポイント、県平均より2.6ポイントそれぞれ高くなっている。 ○登場人物同士の関係や物語上での役割をとらえる設問では、市平均、県平均を5ポイント以上上回っている。	・この領域の能力については、ほぼ定着していると言える。引き続き、朝の学習での、読書および読み取り問題への取り組みを徹底し、さらなる向上を図る。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●この領域の平均正答率は64.0%で、市平均より4.2ポイント、県平均より3.5ポイントそれぞれ低くなっている。 ●漢字の読み書きについての設問では、市平均、県平均を大きく下回っている。 ○ローマ字の書き方についての設問と、国語辞典の使い方についての設問では、市平均、県平均を5ポイント以上上回っている。	・漢字の読み書きについては、ドリルを活用しながら繰り返し学習を行い、テストや宿題などで定着を図っていく。また、文章を書くときには、既習漢字を積極的に、そして適切に使うよう指導する。

宇都宮市立御幸小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	73.4	70.5	70.3
	量と測定	78.5	80.4	79.6
	図形	82.4	79.8	79.7
	数量関係	71.6	68.7	67.5
観点	数学的な考え方	59.0	58.0	57.2
	数量や図形についての技能	77.3	74.1	73.7
	数量や図形についての知識・理解	81.0	79.9	79.5



★指導の工夫と改善

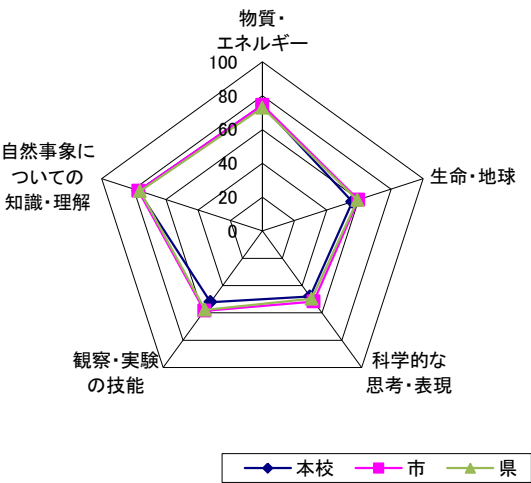
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○この領域の平均正答率は73.4%で、市平均より2.9ポイント、県平均より3.1ポイントそれぞれ高くなっている。 ○設問別に見ると、ひき算、かけ算については、市平均、県平均を5ポイント以上上回っている。 ●数直線の読み取る設問と、文章を読み理由を記述する設問では、市平均、県平均を5ポイント以上	・授業の始めを利用した繰り返しの計算練習により、基本的な計算力は、身につけてきていると考えられる。しかし、わり算に関しては、苦手としている児童も多いため、朝の学習の時間を利用し、個別に指導していく。 ・習熟度別学習において、数直線に関する問題や、文章を読み理由を考え判断する問題を多く取り扱うことで、技能や数学的な考え方の定着を図る。
量と測定	●この領域の平均正答率は78.5%で、市平均より1.9ポイント、県平均より1.1ポイントそれぞれ低くなっている。 ●およそ1kgのものを選ぶ設問では、市平均、県平均を10ポイント以上下回っている。	・重さや長さなどについて、身の回りにある実物と、数字と単位で表された数量とを結びつけることに難しさを感じている児童が少なくない。積極的に具体物を用いた授業を展開することで、感覚を養っていく。
図形	○この領域の平均正答率は82.4%で、市平均より2.6ポイント、県平均より2.7ポイントそれぞれ高くなっている。 ●ボールの入った筒の高さを半径をもとに求める設問では、市平均、県平均を下回っている。	・実際に図形をかいたり、実物に触ったりする活動を取り入れることで、体感しながら、図形の性質を捉えられるような授業を実施する。
数量関係	○この領域の平均正答率は82.4%で、市平均より2.9ポイント、県平均より4.1ポイントそれぞれ高くなっている。 ●かけ算の式に合った文章を選ぶ設問では、市平均、県平均を下回っている。	・文章を読み取り立式する問題を取り扱う際、式の意味を十分に確認するという活動丁寧に行っていくことで、正確に式を立てる力を育成していく。

宇都宮市立御幸小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	74.3	74.5	72.9
	生命・地球	56.0	59.8	59.2
観点	科学的な思考・表現	48.0	51.6	49.7
	観察・実験の技能	52.1	58.4	57.7
	自然事象についての知識・理解	77.0	77.0	76.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○この領域の平均正答率は74.3%で、市平均を0.2ポイント下回っているが、県平均より1.4ポイント高くなっている。 ○形が変わっても物の重さは変わらないことについての設問は、市平均、県平均を5ポイント以上上回っている。また、反射させた光を重ねたときの明るさの違いについての設問は、県平均より10ポイント高くなっている。 ●はかりの正しい操作手順についての設問は、県平均を10ポイント以上下回っている。また、身近にあるものを性質で分類する設問と、銅の性質についての設問は、市平均、県平均より5ポイント以上低くなっている。	・物と重さに関する知識・理解は定着していると言えるが、はかりの使い方における技能について課題が見られた。実験など道具や器具を取り扱う機会を多く設け、体験しながら技能が身につくよう工夫していく。 ・物質の性質については、授業に限らず、日常生活の中でも機会を見つけ取り上げることで、電気を通すもの、磁石に引きつけられるものの知識・理解を定着を図る。
生命・地球	●この領域の平均正答率は56.0%で、市平均より3.8ポイント、県平均より3.2ポイント低くなっている。 ○方位磁針の適切な操作方法についての設問は、市平均、県平均を5ポイント以上上回っている。 ●観察記録をもとに昆虫を選択する設問と、虫眼鏡の正しい使い方についての設問では、市平均、県平均を15ポイント以上下回っている。	・領域全般にわたり知識・理解や技能、思考・表現に課題が見られる。観察や実験する機会を設けたり、デジタル教材を活用したりして基礎基本の定着を図る。

宇都宮市立御幸小学校 第4学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

学びの基礎力

●「自分は家族の大切な一員である」、「自分にはよいところがある」、「自分の行動や発言に自信をもっている」の肯定的回答が県平均を5ポイント以上下回っている。児童が自己肯定感や自信を持てるよう、家庭と協力しながら、日々の声かけや関わりを積極的に行っていく。

○「先生は学習のことについてほめてくれる」の肯定的回答が市平均、県平均を5ポイント以上上回っている。引き続き児童の頑張りに注目し、称賛することで、学習に対する意欲向上を図っていく。

社会的実践力

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の肯定的回答が、市平均、県平均より5ポイント以上低くなっている。日頃より、児童の様子を把握しながら、お互いに失敗や間違いを責めないよう呼びかけ、支持的風土を構築していきたい。

学級力

●「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広めたりすることができている」の肯定的回答が、市平均、県平均より、10ポイント以上下回っている。あいさつや感謝の言葉を交わすことを奨励し、コミュニケーションの取りやすい環境作りに努める。

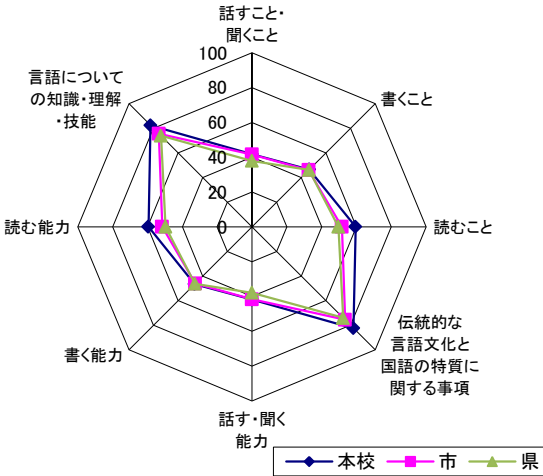
家庭学習力

●「家で、学校の授業の予習をしている」の肯定的回答が、市平均、県平均を10ポイント以上下回っている。また、「家で、学校の授業の復習をしている」は、15ポイント以上も下回っている。児童が自主的に家庭学習に取り組めるよう、便りなどを通じて、具体的な学習方法を示し、家庭に協力を呼びかけ改善を図っていききたい。

宇都宮市立御幸小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	41.8	41.6	37.9
	書くこと	46.6	46.1	46.3
	読むこと	59.5	51.6	49.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	82.4	75.6	74.0
観点	話す・聞く能力	41.8	41.6	37.9
	書く能力	46.6	46.1	46.3
	読む能力	59.5	51.6	49.7
	言語についての知識・理解・技能	82.4	75.6	74.0



★指導の工夫と改善

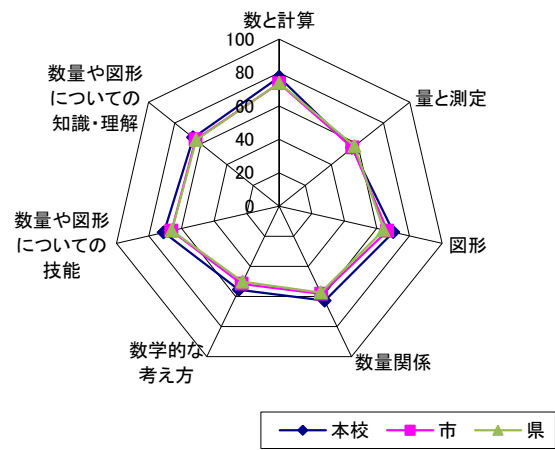
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○領域の平均正答率は41.8%で、県平均より3.9ポイント、市平均より0.2ポイント高い。 ○話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行する設問の正答率は、県の正答率よりも高く、一定の成果が見られた。	・学習する中で話し合いを行うときに、話し手の意図や工夫を考えながら聞くことができるようにする。また、必要に応じて、メモの取り方も指導していく。そして、話し合いの中で役割を固定することなく、話し手や聞き手、司会者など、それぞれの立場に立って話し合いに参加できるようにしていく。
書くこと	○領域の平均正答率は46.6%で、県平均、市平均とほぼ同じであった。 ●資料と話し合いを基に、学級新聞に付け足す文を記述する設問であるが、問題文の把握のできていない児童と設問の条件を満たしていない児童が見られた。	・問題文をよく理解し、指定された文字数で文章を書く機会を増やしていく。また、国語科はもちろんのこと、他教科でも、文章を書く機会を設けていく。
読むこと	○領域の平均正答率は59.5%で、県平均より9.8ポイント高く、市平均より7.9ポイント高い。 ○段落相互の関係を押さえて読む設問では、平均正答率は、県の正答率よりも17.9ポイント高い。その他の設問に於いても、県平均を7ポイント以上上回った。朝の学習の読解ドリルの成果が表れていると思われる。	・説明的な文章の学習において、文章の話題、具体や抽象、構成の仕方や叙述などに注意しながら、文章の段落相互の関係を捉えることができるよう指導していく。また、序論・本論・結論それぞれの役割についても理解できるようにしていく。 ・朝の学習では、読書に加えて読み取りの問題にも取り組み、たくさんの文章に触れることができる機会を設ける。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○領域の平均正答率は82.4%で、県平均より8.4ポイント高く、市平均より6.8ポイント高い。 ○漢字の読み書きの正答率は、県平均より高い。	・漢字の読み書きについては、ドリルを活用しながら繰り返し学習を行い、テストや宿題などで定着を図っていく。 ・文章を書くときには、既習漢字を適切に使うよう指導する。 ・国語辞典の活用を図り、言葉に関心を持てるようにする。

宇都宮市立御幸小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	77.3	73.6	73.7
	量と測定	55.9	56.2	57.7
	図形	70.2	66.5	64.2
	数量関係	62.9	58.4	57.5
観点	数学的な考え方	55.6	51.7	50.3
	数量や図形についての技能	70.9	66.1	65.9
	数量や図形についての知識・理解	65.9	64.0	63.5



★指導の工夫と改善

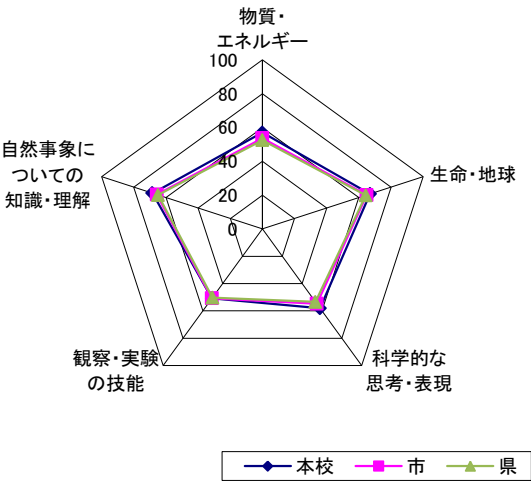
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○この領域の平均正答率は77.3%で、市平均より3.7ポイント、県平均より3.6ポイントそれぞれ高くなっている。 しかし、その中でかけ算やわり算の定着していない児童が目立つ。 ○小数の相対的な大きさの理解については、県の平均よりも3ポイント高いが、小数の仕組みについての理解に課題が見られる児童も見られる。	・計算の技能は定着に差が見られるので、引き続き朝のぐんぐんタイムや、授業の始めを利用して、繰り返し計算練習を行っていく。また、学校全体で朝の学習の時間を利用して、個別学習を行い、定着を図るようにする。
量と測定	●領域の平均正答率は55.1%で、県平均より1.8ポイント低い。 ●面積の㎡とcm ² の単位の関係の理解、正方形のタイルの面積を求める設問について、県平均より低かった。 ○角の大きさの検討をつける設問については、県平均よりもやや高かった。	・面積の単位については、1辺の長さを単位換算することと関連付けた指導をしていく。 ・生活の中で角の大きさや面積を意識させる場面を作ったり、繰り返し問題に取り組んだりしていくことで定着を図っていく。
図形	○この領域の平均正答率は70.2パーセントで、市の平均より3.7ポイント、県平均より6ポイントそれぞれ高い。 特に、与えられた2つの辺の続きをかくてひし形を完成する設問では、10ポイント以上高かった。	・実際の立体模型を使って、垂直や平行などの位置関係を捉えるようにする。 ・実際に見取り図や展開図をかく活動を通して、展開図は一通りではなくいくつかの表し方があることに気付かせる。
数量関係	○この領域の平均正答率は62.9%で、市の平均よりも4.5ポイント、県平均よりも5.4ポイント高くなっている。 特に計算のきまりや変わり方を調べる設問も、県平均より10ポイント以上高かった。 ●2つのグラフを比べ、発言が正しくないわけを記述式で説明できない児童が多く見られた。	・伴って変わる二つの数量の関係について、□や△などの記号を用いて式に表すことのよさに気付かせ、数量の関係についての理解を深める。 ・授業の中で、算数の言葉を用いて、自分の考えを言葉や文章で説明する機会を多く設けるようにする。

宇都宮市立御幸小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	57.0	53.7	52.5
	生命・地球	67.0	64.9	64.3
観点	科学的な思考・表現	58.1	54.7	53.4
	観察・実験の技能	50.8	50.8	50.3
	自然事象についての知識・理解	68.4	65.7	64.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○領域の平均正答率は、57.0%と、市や県の平均より3ポイント上回っている。特に、水は熱せられると上方へ移動することがわかる設問は、県平均より、14ポイント高い。分かったことをもとにコップが割れる理由を推測する設問では、県平均を10ポイント以上上回った。 ●金属を温めたときの様子を推測する設問や水が氷になるときの温度変化についての設問では県平均をやや下回った。	・領域全般にわたり思考・判断・表現や知識・理解が定着している。今後も学習したことが生かせるよう継続して指導していく。
生命・地球	○領域の平均正答率は、67.0%で、県の平均を2ポイント程上回っている。特に、一日の気温の変化の様子から天気を推測する設問や、水の蒸発についての設問では、県の平均をそれぞれ10ポイント以上上回った。しかし、方位磁針の正しい使い方や、月や星の動きについての設問では、県の平均を下回る設問も見られた。 ●月と星の設問では、星座早見の持ち方や使い方の技能面での課題が見られる。	・天気の様子や月と星については、興味・関心が高い。今後も実際に観察する機会を持ったり、デジタル教材などの映像資料を活用したりして知識の定着を図る。

宇都宮市立御幸小学校 第5学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

学びの基礎力(豊かな基礎体験)

●「家の人と将来のことについて話すことがある」「自分は家族の大切な一員である」の回答が県の平均を下回っている。その他の質問項目でも肯定割合が下回っている。児童の根底をなす基礎体験の大切さを家庭と共有し、児童が心身共に健やかに成長できるようにしていきたい。

学びの基礎力(学びに向かう力)

●「将来の夢や目標を持っている」「学校での役割や係の仕事に責任を持って取り組んでいる」の回答の肯定割合が県平均を下回っている。学習動機につながる夢や希望が持てるよう、様々な教科などでキャリア教育をしていくようにする。また、係や委員会の仕事に対して責任を持って取り組めるよう励ましていき、他のために役立つ喜びを持たせるようにする。

○「難しい問題にであうと、よりやる気がでる」という質問に対して肯定割合が県平均を約10ポイント上回っている。学習課題をより高度なものも取り入れ、児童のやる気を高めていくようにする。

社会実践力

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と回答児童は、県平均より20ポイント高く、自分の考えを文章にすることを苦手と感じている児童が多い。授業の中で、視点を与えながら、自分の考えを文章にしていけるようにしていきたい。

家庭学習力

●児童の家で学校の予習、復習をしているという質問に対して、共に市や県の平均を10ポイント以上下回っている。特に復習とテストで間違えた問題についての勉強については約20ポイント程低くなっている。しかし、宿題の他に自分で考えた勉強をしているという質問に対しては、県平均を7ポイント上回っている。宿題だけでなく自主的に家庭学習に取り組めるよう、具体的に学習方法を示したり、家庭に協力を呼びかけたりして改善を図っていきたい。